

文化的景観研究集会（第12回）ポスターセッション

ポスター募集のお知らせ

（学術研究部門／地域計画部門／地域活動部門）

奈良文化財研究所では、本年11月16日（土）、文化的景観研究集会（第12回）を別紙のとおり開催します。その研究集会の一部として「ポスターセッション」を実施します。

「ポスターセッション」は、研究集会のテーマにかぎらず、営みの風景に関わる日頃の調査研究や取り組みを広く対象とし、成果発信や情報共有の場としていきたいと考えています。また、本年度は、文化的景観が文化財に位置付けられて20年という節目の年です。これを記念して、全国の文化的景観に関わる自治体で構成する全国文化的景観地区連絡協議会の大会においても、このポスターを展示する予定です。

応募要項は下記のとおりです。多くの皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室

〒630-8577 奈良県奈良市二条町2-9-1

TEL: 0742-30-6816

E-mail: keikan_nabunken@nich.go.jp

応募要項

1. 日程

- 9月20日（金） 応募登録締切
10月15日（火） 出力用ポスターデータ・『発表資料集』掲載用発表要旨 提出締切
11月16日（土） 15:20～16:00 ポスターセッション コアタイム（ポスター前で発表）
17:30～17:40 ベストポスター賞授与式

※文化的景観地区連絡協議会・平取大会（10月24日）においてポスターの展示も実施します。

2. 会場

奈良文化財研究所（奈良県奈良市二条町2-9-1）

3. 対象

ポスターセッションでは、研究集会テーマにかぎらず、営みの風景に関連する内容を対象とします。また、発表内容に応じて、以下の3つの部門を設けます。

- 1) 学術研究部門：概念・調査・計画・実践等に関する学術研究。
- 2) 地域計画部門：行政等における文化的景観保護のためのプロセスや計画策定に関する報告・紹介。
- 3) 地域活動部門：NPO・住民組織・行政・大学等によって実践された取り組みの紹介。

4. 応募資格・応募数

すべての部門において不問とします。行政や地域の活動主体、学術研究機関など、文化的景観に関わっている方々や、これから文化的景観に関わろうとしている方々からのご応募を期待します。ただし、営みの風景（広義の文化的景観）から大きく逸脱した応募内容の場合は、発表に関して事前に協議をさせていただくことをご了承ください。

なお、総数は30題で、発表代表者（筆頭発表者）としての応募は1人1題とします。30題を超える場合は、テーマの適合性に応じて選ばせて頂くことをご了承ください。

5. 費用

応募費用は無料とします。

6. ポスター・発表要旨の仕様とデータの提出

[ポスター]

- ・ 1 発表あたり、A0 サイズ（841mm × 1189mm）1 枚。
- ・ 記載言語は日本語、あるいは日英併記とします。
- ・ 文字のサイズは、2m 程度離れた位置からでも判読できる大きさとしてください。
- ・ 出力サイズ（A0）にて作成のうえ、PDF ファイルへ変換し、下記の事務局まで提出ください。
- ・ ポスターの出力は事務局で行います。

[発表要旨（研究集会発表資料集掲載）]

- ・ タイトル、発表者名、所属、発表要旨（400～600 字程度）を、原則日本語で記載してください。
- ・ Word 等にて作成ののち（書式自由）、メールで下記の事務局まで提出してください。
- ・ 事務局にて編集の上、研究集会発表資料集に掲載します。

[ポスター・発表要旨の締め切り]

- ・ 締め切り：10 月 15 日（火）

7. 応募登録

応募登録票に必要事項を記載し、メールにて事務局にご送付ください。

申込時の題目・概要は仮として変更も可能です。ただし発表要旨提出時の題目・要旨は正式なものとしします。

8. 各賞について

ポスター内容について、事前の選考のうえ、ベストポスター賞の授与を以下のとおり行います。

- ◇ 学術研究部門：若手研究者（博士号取得未満の大学院生及び学部生）による発表題目より若干題。
- ◇ 地域計画部門・地域活動部門：すべての応募題目より若干題。

[選考基準]

- ・ ポスター内容の充実度
- ・ ポスターの見やすさ・わかりやすさ

[授与式]

- ・ 11 月 16 日 17:30～17:40（閉会時）

9. 景観研究室刊行物への掲載について

応募いただいたポスターの著作権は製作者に帰属します。ただし応募登録時点で、景観研究室による報告書等の刊行物や web を含む其他媒体での掲載について、応募者は許諾したものとします。

報告書等の刊行物への掲載については、紙面の都合や編集上、掲載の叶わないポスターの生じる可能性があることをご了承ください。

10. 問い合わせ先／提出先（事務局）

奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室
〒630-8577 奈良県奈良市二条町 2-9-1
TEL：0742-30-6816
E-mail：keikan_nabunken@nich.go.jp

(参考) 2015 年度ポスターセッション一覧

	発表題目	発表者名 (○: コアタイム発表者)
A - 学術研究部門		
A-1	塀・垣類に係る伝統的工法の地域的特徴に関する研究	○西村亮彦 (国土技術政策総合研究所)、木村優介、曾根直幸 (元・国土技術政策総合研究所)、栗原正夫 (国土技術政策総合研究所)
A-2	筑波山周辺地域の制度	○西邑雅未、黒田乃生 (筑波大学)
A-3	神社の立地にもみる住民の想い - 国選定重要文化的景観 利根川・渡良瀬川合流域の水場景観 -	○宮田裕紀枝 (元・板倉町教育委員会)
A-4	棚田景観の価値付けを契機とした地域活動の活発化 - 高根県奥出雲を事例として	○中西広大・新雄一郎・徐尚佑 (大阪市立大学)
A-5	かくれキリシタン信仰の世界遺産登録運動における諸問題 - 「橋の色」をめぐる行政と住民の対立を事例として -	○小泉優莉菜 (神奈川大学)
A-6	文化的景観としての対馬の石屋根倉庫の研究	○小林秀輝、藤田直子 (九州大学)
A-7	中国の黔东南における植物資源の循環利用に関する研究	○李雪、黒田乃生 (筑波大学)
A-8	博物館とその周辺環境に関する研究 - Tokyo National museum, Tokyo と National Gallery, London の文化的空間構成要素の比較分析 -	○岡野瑛莉、関根理恵 (江戸川大学)
A-9	河岸における文化的景観に関する研究 - 首都『Paris, rives de la Seine (Paris, FRANCE)』、『日本橋川河岸 (東京都, 日本)』と地方都市『Le quai de la poissonnerie (Colmar, FRANCE)』、『巴波川河岸 (栃木市, 日本)』を事例として -	○関根理恵 (江戸川大学)
A-10	「都市の環境倫理」の観点から見たパリの文化的景観	○吉永明弘 (江戸川大学)
A-11	歴史的建造物内空間の文化的景観に関する考察 - ヴェルサイユ宮殿を事例として -	○安座間愛、関根理恵 (江戸川大学)
B - 地域計画部門		
B-1	なりわいを支えることにより文化的景観を守る取組み 「カルデラ火山との共生」阿蘇の文化的景観①	○帆足俊文、園田羊一、金山一仁、緒方徹、佐伯隆夫 (阿蘇世界文化遺産推進室)、徳永哲、赤星眞弓 ((株) エステイ環境設計研究所)
B-2	文化的景観における本質的価値の構成と表現 「カルデラ火山との共生」阿蘇の文化的景観③	○徳永哲 ((株) エステイ環境設計研究所)、帆足俊文 (阿蘇世界文化遺産推進室)、赤星眞弓 ((株) エステイ環境設計研究所)
C - 地域活動部門		
C-1	平取町文化的景観の価値認識と地域・企業・行政の連携による保全の取組	○貝澤太一 ((株) ノーザンクロス)
C-2	重要文化的景観「近江八幡の水郷」 ワイズユースによる景観保全	○野口尚志、濱崎一志、深尾甚一郎、奈良俊哉 (NPO 法人景観と文化研究会)
C-3	「大溝の水辺景観」を舞台とした「暮らし」と「観光」の共存するまちづくりに向けて	○神原未来、今西仁、仁賀定夫 (大溝の水辺景観まちづくり協議会)
C-4	千年村を紐解く、楽しむ - 周防鑄銭司の風土を舞台に -	○本間智希 (RAD)、菊地暁 (京都大学)、恵谷浩子 (奈良文化財研究所)、井高久美子、高原文江 (山口情報芸術センター)
C-5	白地図の余白で地域を語る ~くろそん手帖の活動と展開について~	○井上紀代美 (しろくまデザイン)、多田さやか (くろそん手帖活用委員会)、川村慎也 (四万十市教育委員会)、
C-6	空石積による水路改修の一事例	○松熊修吾、西山穂、濱口聰、國廣聡志 ((株) 西日本科学技術研究所)、宇都宮幸成、西村範明 (四万十町教育委員会生涯学習課)
C-7	学生キャンプから見えてきた流域連携事業の可能性	○武市真実 (公益財団法人四万十川財団)、川村慎也 (四万十市教育委員会)
C-8	住民感覚に根ざした文化的景観の取組みに向けて 「カルデラ火山との共生」阿蘇の文化的景観②	○赤星眞弓、徳永哲 ((株) エステイ環境設計研究所)、帆足俊文 (阿蘇世界文化遺産推進室)、武藤由美子 ((株) エステイ環境設計研究所)